



Title	目で見るWHO 第96号 表紙・目次等
Author(s)	加納, 康至
Citation	目で見るWHO. 2026, 96, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/105782
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

目で見る WHO

2026 春号 
No.96

Visual Journal of Friends of WHO Japan



公益社団法人

日本WHO協会

CONTENTS

P1	ごあいさつ	加納 康至
P2	巻頭特集	
	1. 低出生体重児の子育ての現状と支援	板東 あけみ
	2. 匿名での赤ちゃんの預け入れと内密出産を開始して	賀藤 均
P6	セミナー・イベント報告	
	1. 立命館大学国際平和ミュージアムにおける企画展示と セミナーの開催	當山 紀子 豊田 ピチャヤ
	2. SAYONARA「公衆衛生に国境はない」 第84回日本公衆衛生学会総会シンポジウムおよび自由集会報告	大西 眞由美 西原 三佳
P16	NGO・団体紹介	
	多文化共生社会を目指して、日本に暮らすベトナム人を支える活動	ティック・ドゥック・チー
P18	国際保健を学べる大学・大学院	
	1. 名桜大学看護学科総合看護領域(国際看護)	藤井 まい
	2. 旭川医科大学医学部社会医学講座	神田 浩路
P22	留學生日記	
	出口の見えない国際社会。公衆衛生の「正解」を求めて、米国大学院での半年	神田 正樹
P24	WHO職員日記	
	高齢化に先手で備える：WHO西太平洋地域で進める健康な高齢化	神田 美希子
P26	WHOニュース 10月／11月／12月	林 正幸 渡部 雄一
P32	書籍紹介コーナー／読者のページ(投稿募集)	安田 直史
P33	日本WHO協会60周年記念 活動	
P34	日本WHO協会沿革／WHO憲章	
P36	日本WHO協会60周年記念 歩み	
P37	寄付者のご芳名／編集委員のページ	井上 悠生
P38	入会案内	

ごあいさつ



日本WHO協会理事
一般社団法人大阪府医師会 会長
加納 康至 (かのう やすし)

「すべての人々に健康を」—世界保健機関 (WHO) が掲げるこの理念は、国境・文化・社会制度の違いを超え、普遍的な価値を持つものです。日本WHO協会が長年にわたりその理念を国内に広め、国際的な保健活動との橋渡しを担ってこられたことに、心より敬意を表します。

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが変更となってから3年が経過しましたが、感染症の脅威が瞬時に世界規模へと拡散し、社会生活や経済活動に深刻な影響を及ぼしたことはご承知のとおりです。

コロナ禍では大阪府においても、医療提供体制の逼迫や市民生活の制約など、数々の困難を経験しました。しかしながら同時に、医師会をはじめとする医療関係者、行政、地域社会が一体となり、危機を乗り越えるために協力し合う姿勢が育まれたことは、大きな財産です。

また、近年は感染症のみならず、生活習慣病や高齢化に伴う慢性疾患、さらには精神的健康の課題など、私たちが直面する健康問題は多岐にわたります。これらは一国のみで解決できるものではなく、国際的な知見の共有と協働が不可欠です。WHOが推進する「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC)」の理念は、まさにその方向性を

示すものであり、医師会としても地域医療の充実を通じてその実現に寄与してまいりたいと考えています。

大阪は古来より「天下の台所」と呼ばれ、商業と文化の交流の拠点として発展してきました。多様な人々が集い、互いに学び合い、支え合う土壌を持つこの地から、国際的な保健活動に積極的に参画することは、歴史的にも自然な流れであると感じています。

今後、気候変動や新興感染症、社会的格差など、健康を脅かす要因はさらに複雑化することが予想されます。そのような時代にあって、医師会の使命は単に診療を行うことにとどまらず、社会全体の健康を守るための政策提言や啓発活動へと広がっています。日本WHO協会との連携を深め、国際的な視野を持ちながら地域医療を支えることこそ、課せられた責務と考えています。貴会のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

2026年3月